

令和 6 年 1 月 20 日

第 2 回足立区立図書館協議会

午前10時00分開会

○大久保中央図書館長 足元の悪い中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。

私は、本協議会の事務局を務めさせていただきます、足立区立中央図書館長の大久保でございます。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。以降、着座にて失礼いたします。

議事に入る前に、3点ご案内いたします。

まず、本協議会は「足立区立図書館条例」及び「足立区立図書館協議会運営規則」に基づき実施いたします。

続いて、本協議会は、「足立区立図書館協議会運営規則」第5条に基づき、委員の半数以上の出席により委員会が成立いたします。本日は、現時点で13名の方にご出席いただいておりますので、出席委員は過半数に達しているということで、委員会が成立していることをご報告いたします。

最後に、本協議会は公開を原則としているため、会議録をホームページ等で公開させていただきます。会議録作成や記録のため、事務局にて録音及び撮影を行うことをご了承ください。

なお、本日は傍聴人の方もいらっしゃっておりますが、傍聴人の方は録音及び撮影はできないこととなっておりますので、ご了承いただけますと幸いです。

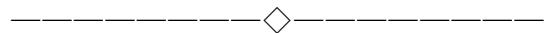
委員の皆さんにおかれましては、議事に入りましたら、ご発言の際には、最初にご自分のお名前を仰っていただいてからご発言いただくようお願いいたします。

なお、本日、こちらの会場はマイクをご用意しております。今日の前にあるマイクの使い方なのですが、ご発言の際にボタンを押していただきますと、マイクが赤く点

灯いたしますので、マイクが点灯してからご発言いただくようにお願ひいたします。ご発言が終わられましたら、もう一度ボタンを押してマイクを切っていただければと思います。

では、ここから議事の進行は議長にお願いしたいと思います。

大串議長、よろしくお願ひいたします。



○大串議長 おはようございます。

それでは、進行を代わらせていただきます。改めまして、私、本協議会の議長を務めさせていただきます大串と申します。よろしくお願ひします。

最初に議長が挨拶をするということなので、申し訳ないですが。

どうも今日は寒いところ、雨の中、足元の悪いところ誠にありがとうございます。私も歳なので、雨の中、滑ったりなんかすると、突然骨折とかになってあれなのですが。

本協議会の役割としては、図書館としては2000年に地方行政の法律で一括してございまして、それ以降、国と地方の関係が大きく変わりまして、国と地方は対等だという話に。

文部行政の中でも、特に図書館のところとか社会教育は、法律はあるのですが、その下に望ましい基準というのをつくりまして、基準を1つの参考にして、それぞれの自治体で住民の方とよく話し合って図書館のサービス、運営を進めてほしいと、このような形に変わったのです。ただ、図書館界は、ほとんど地方行政の中でも教育委員会と行政委員会とは別のところにあります、なかなかそういう理解が進んでいない

ところがございます。こちらのように協議会をつくってこれからサービスを考えようというところは、まだ圧倒的に少数なのです。

そういった意味で、本協議会は全国に先駆けてやっていますので、皆様方にご協力いただいて、できるだけ皆様方の忌憚のないご意見を頂いて、それを反映させていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、次に次第の2ということで、前回議事録の確認を行いたいと思います。

まず、事務局から説明をよろしくお願ひいたします。

○大久保中央図書館長 中央図書館長の大久保でございます。私から、前回の議事録についてご説明させていただきます。

本日の会議資料として、お手元に議事録を置かせていただいております。こちらは資料2になりますて、A4縦のものになりますが、こちらに沿ってご説明させていただきます。

前回、第1回の協議会では、足立区立図書館の現状をご説明させていただいた上で、図書館サービスデザインアクションプランの骨子について、大串議長から皆様にご発言を振っていただきまして、皆様からそれぞれ貴重なご意見を頂いたところです。

簡単にですが、頂いたご意見の主な部分を私からご紹介させていただきます。議事録の16ページからご説明させていただきます。

16ページの下から17ページになりますが、坪委員から「図書館の中にぎわいのあるコミュニティ空間が必要」ということでご意見を頂きました。

檜垣委員からは、18ページになりますが「ちょっと話をしていても平気だという

環境づくりができたら、利用者が増えるのではないか」というご意見を頂いたところです。

同じく18ページのところですが、戸部委員からは、「障害者の方も使いやすい環境の施設になるといい」ということと、いろいろ新しい図書館の方向性についてお話を聞いていただいた上で、「多目的広場という印象を持った」というご発言を頂いております。

そこから少しページが飛びまして、21ページをお開きください。

こちらは塚本委員のご発言になりますが、「本を借りに行くという目的意識とか、勉強しに行く目的がなくても気軽に行ける図書館というのが面白いのではないか」というご意見を頂いております。

22ページ、23ページ、三浦委員からは、「にぎやかな人の声が聞こえる空間を楽しみにしている」とのご意見を頂いております。

続いて、同じ23ページの高橋委員からは音のゾーニング、「静かな空間」、「声や音が流れ込む空間」、「人の声や音が聞こえる空間」ということで、「その3段階でゾーニングした図書館ができるといいのではないか」というご意見を頂きました。

隣の24ページですが、田中委員からは「アクションプランの骨子に『学校との連携』を入れてほしい」というご意見を頂いております。

めくっていただきまして25ページになりますが、芦川委員からは「学校の図書館で読書好きの子どもが育っているので、図書館でもさらに本に触れられるような形で宣伝ができるといいのではないか」というご意見を頂いております。

26ページ、浅野委員でございますが、

「若い世代、特に高校生とか大学生は、図書館に行く機会がなくなってきた。その理由としては、ふらっと立ち寄る場所ではない感じがしている」というご意見を頂いております。

めくっていただきまして 27 ページですが、小林委員からは、「図書館が読書率を上げるという目的なのか、それともコミュニティを築いていく目的なのか、いろいろな軸を持って考える必要があると感じた」というご意見を頂いております。

最後に菊入委員からは、27 ページでございますが、「それぞれの活動に合わせた図書館、いつでも身近にある、そのような形の図書館ができると本に親しみやすくなるのではないか」というご意見を頂いております。

皆様から様々な貴重な意見を頂いております。本日もぜひ活発なご意見、ご質問を頂ければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からの説明は以上でございます。
○大串議長 今、事務局から説明があったのですが、前回のご発言、骨子を少しぬぞつていただいたのですが、何かご意見、ご質問ござりますか。

これは発言した一字一句をそのまま載せるスタイルですよね。

○大久保中央図書館長 なるべくご発言を忠実に載せております。

○大串議長 いかがですか。特になれば、これで一応。

これは公表しますか。

○大久保中央図書館長 ホームページに掲載させていただきたいと思います。

○大串議長 そのようになりますので、よろしくお願ひいたします。

そういうことだったら、もう少し発言の

仕方を変えるのだったと思う方がいらっしゃるかもしれません。

では、次に次第の 3 番に行きまして、「事務局からの説明・質疑応答」を行いたいと思います。

まず、図書館サービスデザインアクションプランについて、よろしくお願ひします。

資料 2 に基づく私からのご説明は以上となります。

○河合課長 図書館サービスデザイン担当課長の河合です。私からアクションプランについてご説明させていただきたいと思います。着座で失礼いたします。

皆様のお手元にアクションプランをお配りしておりますので、そちらとスライドを合わせて御覧いただきながらお話を聞いていただければと思います。

まず、お手元に配付しておりますアクションプランのページを 1 枚めくっていただいて、目次を御覧いただければと思います。

この目次ですが、こちらは第 1 回の協議会にて皆様にお配りして、ご意見を頂きましたアクションプランの骨子案に肉づけする形で作成しております。

骨子案では 7 つのアクションという形で設定しておりましたが、いろいろご意見を受けて肉づけを進めて行く中で整理をして、今回、5 つのアクションという形にまとめさせていただいているところが大きな変更点になっております。

それでは、中身について具体的にご説明させていただきます。

このアクションプランの策定の背景といたしまして、社会の変化や I C T 技術の進歩など様々な要因から、公共図書館では従来の枠から一步踏み出したサービスが求められている時代が来ております。

単に本を借りたり情報を消費したりする

場ではなく、利用者の活動や交流を促進する取組を行う図書館が注目されております。

これらを踏まえて、この図書館サービスデザインアクションプランを作成することとなりました。

次に、こちらがアクションプランの位置づけです。

「足立区読書活動推進計画」に基づく行動計画という形になります。そして、個別のアクションのより具体的な内容は、個々の事業計画の中で検討していく予定でございます。

このアクションプラン計画期間は、5年間で想定しております。

次の2章は、「これから足立区立図書館」と資料がありますが、こちらの中身は第1回協議会にてご説明した内容になりますので、本日は詳しい説明を省略させていただきまして、このように現状と課題を大まかに整理している状況となります。

課題については、ちょっとここでもう一度振り返っていただきたいと思います。

3つの課題を設定しております。

「普段から本を読む人」「本が好きな人」に図書館資料を提供することを主要コンセプトとして設定している「平成前期」の図書館という状況にあります。その結果、図書館の利用者が今、全区民の13%にとどまっている状況、これが1つ目の課題となります。

2つ目の課題です。図書館は「静かに本を読む場所」という価値観が、一部の方にとって来館のハードルになっていることがあります。

3つ目の課題として、「たくさん本があるのがよい」という考え方で、棚に隙間なく図書が配架されているため、「本を読みたくなる演出」が不足している状況があり

ます。

これらの課題を踏まえて、区立図書館の使命、ミッションを整理したのが、ここにあります「地域の生活や暮らしに役立つ図書館」になります。お手元の資料でいきますと9ページになります。

こちらの「地域の生活や暮らしに役立つ図書館」というミッションを果たしていくことを通じて、1人でも多くの足立区民に「図書館があってよかった」と感じてもらえることを目指していきます。

そのために、今後の目指す姿として、次の4つを整理しております。

全体の方針としては、より多くの区民に利用される「本を読まない人」も来館する図書館です。

全体の方針を形にしていくために、3つの柱として、「空間」、「つながり」、「本との出会い」を考えております。

「空間」は、1人で静かに読書したい人もグループで勉強したい人もみんなが居心地よく滞在できる居場所を目指していきます。

「つながり」は、本や情報を介したコミュニケーションの場として、ぶらりと立ち寄りたくなる明るく楽しい図書館を目指していきます。

「本との出会い」は、ふだん本を読まない人でも思わず本を手に取りたくなるような魅力的な棚づくりを目指していくとともに、紙の蔵書だけではなくインターネット上にあるデジタル情報を含めて必要な情報との出会いをサポートしていくことをを目指します。

この3つの視点に基づいて、具体的に取り組んでいく5つの取組をこちらで整理してみました。11ページになります。

(1) 一人でもグループでも居心地のよ

い空間づくり。

①館内ルールの見直し。

現在は、原則禁止としている会話や飲食、撮影などのルールについて一部緩和して、これまで図書館を利用しなかった人も気兼ねなく居心地よく利用できる環境の整備を進めています。

こちらは、現在の図書館の中の掲示物の状況です。「携帯電話、スマートフォンは、館内では使えません」とか、「飲食はできません」といったことが表示されております。

②ハード面のリニューアル。

レイアウトやゾーニングなどの見直しをして、内装・デザインや什器の変更を検討していきます。

(2) 図書館で人や活動の「つながり」を育む仕掛けです。

①足立区立図書館全体の考え方。

区立図書館の目指す姿「つながり」の背景には、足立区の基本構想で示された将来像「協創力でつくる 活力にあふれ進化し続ける ひと・まち 足立」があります。

従来の区立図書館が提供してきた「利用者と資料をつなぐサービス」に加えて、「利用者と利用者がつながる仕掛け」をつくることによって、区立図書館が足立区の協創力の一端を担っていきたいと考えています。

具体的には、令和11年1月にオープンします「梅田八丁目複合施設」では、複合施設を超えた融合施設として、従来の区立図書館にはない新たな取組、例えばこちらに3つ挙げておりますが、こういったことを行なっていくことを考えております。

得られたノウハウをほかの図書館へ展開することで、各館における様々な「つながり」の発展を目指していきます。

こちらは、梅田八丁目複合施設の準備の

ため、区民の方と一緒にやっているワークショップの様子になります。皆さんで「こんな図書館ができたらいいな」「こんな図書館ができたら、こんな活動をしてみたいいな」というように、図書館を自分ごととして考えていただくというテーマでいろいろなディスカッションをしていただいているところの写真になります。

(3) 紙の資料にもデジタル情報にも出会える、魅力ある棚づくり。

①魅力ある棚づくり。

従来からの配架方法を残しつつも、新たに、区民に身近なテーマを設定して表紙を見せたりディスプレイに工夫をしたりすることで魅力的な棚づくりを目指していきます。

②蔵書の構築。

現代の足立区民の生活や暮らしに役立つ資料と、足立区の歴史を伝える資料の両者をバランスよく収集して、次世代の足立区民に残す蔵書の構築を目指していきます。

③デジタル情報との出会いをサポート。

足立区立図書館にある紙の蔵書と図書館の外にあるデジタル情報を組み合わせて案内していくことで、地域の歴史を次世代へと伝えていきます。

(4) 図書館サービスのさらなる発展に向けた取り組みとなります。

①新たなターゲットに向けたイベントの実施。

あらゆる世代が利用できるように、各年代層に応じた事業や利用者同士の交流を促進する事業など、様々な事業を実施することで利用者層の拡大を図っていきます。

②新たなコンセプトに合わせた広報。

これまで図書館を利用したことがない人にも、新たな図書館のコンセプトやイベントをPRして、利用拡大を図っていきます。

③学校図書館との連携。

学校図書館と公共図書館の司書が情報交換を密にすることで、調べ学習のサポートを行ったり、子どもたちを区立図書館へいざなって、豊富な情報との出会いを創出します。

また、教員が必要とする足立区の歴史に関する情報についても、デジタル資料を含めて案内することで、地域学習の授業についてもサポートしていきます。

④館内掲示物の見直し。

こちらの写真を御覧ください。現在の管内の様子の写真になっております。

雑然とした掲示によって、必要な情報が埋没してしまっている状況です。掲示場所をまとめて、統一感のあるデザインにするなど、分かりやすい掲示を検討していくと考えております。

(5) 新たなサービスを実施するために職員の力を引き出す仕組みづくり。

①専門的常勤職員の育成（複線型人事制度）

足立区には、「複線型人事制度」があります。通常は4年程度で異動していくのですが、特定の分野につきましては、希望すれば1つの分野で長く働いて、専門知識を深め、スペシャリストとして活用することもできる制度です。

これまで9つの分野で行ってきましたが、ここで新たに図書館分野を設けいくよう準備を進めています。

②司書の人材育成と技能・スキルの次世代継承。

司書の従来の専門性に加えて、コミュニケーションの力を高めていくことで、より区民に寄りそった図書館サービスを行うことができる人材を育成していきます。

③中央図書館の機能強化。

このアクションプランを初めとして、足立区立図書館の全体的な方向性について検討し打ち出していくなど、中央館としてのリーダーシップを発揮していくように目指します。

具体的な取組は以上になります。

次のページに行きますと、「2 成果指標」になります。

本プランの最終年度である令和11年度に向けて、新たなミッションを意識した成果指標を設定していきます。こちらはまだたき台の段階ではありますが、今、12の指標を挙げております。

(1) 中央図書館の3番目、「図書館利用満足度（居心地がよいと感じる区民の割合など）」を図っていきたいと考えています。

(2) 区立図書館全体の6番目、「『区立図書館があつてよかった』と思う区民の割合」。ここは実際に図書館を利用している方だけではなく、日常的に図書館を使わない区民の方も含めて「区立図書館がうちのまちにあってよかったね」と思っていただける区民を増やしていきたいというミッションの部分を図っていきたい指標として考えております。従来の図書館の成果指標とは少し異なる視点のものも含めた形で考えております。

次のページに行きまして、この後の予定となります。

本日が11月20日、アクションプランの素案を皆様にご検討いただきまして、そちらのご意見を基に第3回には修正版をご提示いたしまして、議論していただき、第3回で固めていくような予定を考えております。

それでは、この後ぜひ活発なご議論を頂きますようお願いいたします。

大串議長、以上となります。

○大串議長 ご説明ありがとうございました。

今、説明があったアクションプランについてご意見を頂きたいと思うのですが、最初に私から一言だけ。

この何とかデザインというのは、今、はやりなのですね。二十何年前だと思うのですが、図書館のレファレンスに関連したことで、「情報デザイン」ということが提案されたことがあります。

情報デザインの国際会議、シンポジウムが1999年10月、多摩美術大学の講堂であったのですが、そのとき、国際的にと言いますか、800人ぐらい集まつたのです。日本からも200人ぐらい参加があつた。

「情報デザイン」というのは、建築家のリチャード・ワーマンという方が提案されたことで、社会全体を考える情報を求める人が、できるだけ早く効率的に情報にたどり着ける、そういう情報を探して誰もがすぐ活用できるような新しい社会をつくるためにどうしたらいいかという提案内容なのです。

ところが、日本の参加者のほとんどがデザイナーの方で、コンピュータの画面を考えるデザイナーとか本のデザイナーとか、そういうデザイナーの方が来られて、趣旨からいうと本当は社会全体のことですから、いろいろな方に集まつていただかなければいけないことだったのですが、そういう人はごく僅かで、そのときすごく感じたのが、日本の理解はそうじやなかったのです。

それから、今回の図書館サービスデザインというと、皆さん、サービスについて何かいろいろ話をするのではないかという理解があるのですが、そうではなくて、これは社会全体の中で図書館サービスをどのように考えて、1つ1つのサービスが区民、あるいは区全体の中でどのような役割を持

って効果をもたらすか、そういう地域の中での図書館というものを考えていただいて、そういった区民の方々のニーズを酌み上げて図書館が具体的なアクション、つまり行動をしていく、こういう構造を考えているわけです。

ですから、今回の説明でも最初に「ミッション」とありますし、つまり「使命」ですよね。図書館の使命とデザインがどういう関係があるのだ、サービスとデザインがどういう関係があるのかということなのですが、社会全体の中での図書館のサービスを考えていく上で、やはり図書館の使命から組み立てていかなければいけない。

こういう構造になっておりますので、皆さん方もちよつとその辺を頭に入れていただいて。それとミッションについても積極的にご発言いただきたいと思います。

区によっては、「にぎやか」とか「楽しい」とかそういう言葉が入っている計画などを作っているのですが、足立区の場合はどのようにしていくのか。これはもちろん皆様方のご意見が反映されるところだと思います。

ということで、あとはそれぞれにご発言いただいて、最後は原田副議長のお話ということになるのですが。どなたかございませんか。

○豊田委員 東京農業大学の豊田です。よろしくお願いします。

せっかく大串議長からミッションという節がありましたので。

前回、私、ちょっとうまく言い表せなかったのですが、「暮らしに役立つ図書館」という使命のところで、「役立つ」というのが、実はちょっと違和感を持っていました。大串議長がおっしゃられたように、「にぎやか」だったり「楽しい」で、実際のアク

ションプラン、前回からこれだけきっちりまとまって、本当にご苦労さまでしたと言いたいのですが、実際のアクションプランの中のコンセプトでも「居心地のよい」だったり「つながり」だったり「魅力」という言葉がある中で、必ずしも役立つことを目的にはしていない図書館を目指しているのではないかなど。使命で言われていることとアクションにずれを感じる。むしろ使命のほうをアクションに合わせる形で修正したほうがよくなのではないかなど。

この図書館があることで地域の人々が幸せになれるとか人に優しくなれるとか、地域に根差した図書館、地域生活に入り込んでいくような図書館であるとか、ちょっといい言葉が私もぱっと思いつかないのですが、少し皆様の意見をお聞きして、取組に合った言葉が見つかるといいと思っています。

以上です。

○大串議長 ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

○坪委員 「あだち絵本シアター」から参りました坪と申します。よろしくお願ひいたします。

今お話を聞いていて、全く本当にそのとおりだなと私も共感させていただきまして、私の実体験では、やはり良書と出会うということが非常に大きい。挫折したときや困難に立ち向かうときに、本当に生きる力になるのがやはり良書との出会いだと感じます。

この良書と出会ったのは、たまたま出会った場合もありますし、知り合いの方から紹介されたり様々あるのですが、そういうこともコミュニティ空間がめぐり逢いの場となれば幸いだと思います。

その上で、足立区の強みとしましては、

6大学があることが非常に大きな強みだと感じております。そこには多くの学生が集い合っていて、多くの学生がいる以上、今まで生きてきた受験の失敗とか挫折とかいろいろな成功体験もありますし、また、どうやって勉強したのか、自分が得た良書を「こういったものがあるよ」「お勧めのものがあるよ」と、今後の子どもたちの目線、または親御さんの目線に合わせて、学生とのコミュニケーションが非常に重要と感じております。

そういう意味で、生きていくための強さイコール幸福に向かって行く、または足立区民としての幸福度を高めていくといった施設の役割につながっていけたらなど、今お話を聞いていて実感いたしました。

私からは以上でございます。ありがとうございます。

○大串議長 ありがとうございました。ほかにいかがでございますか。

○豊田委員 どなたもいらっしゃらないので、もう一つだけいいですか。

次の「目指す姿の全体方針」も基本的には賛成なのですが、「『本を読まない人』も来館する」という言い方が、逆に本が大好きな人たちを阻害することにならないといいなと思っていて、もちろんそういう意図はないと思うのですが、「現状」のところにもあるように、本好きの人が集まってしまっているという現状を打破したいというお気持ちからの目指す姿だと思うのですが、本を読まない人をメインターゲットにしているわけではなく、本を読む人ももちろん大事にしながら本を読まない人も大事にするみたいな、もう少しインクルーシブというか、図書館をこよなく愛している今の利用者たちがいるわけなので、その人たちにあまり違和感を持たれないような文言

にしたほうがいいと感じているので、一言。

○大串議長 ありがとうございました。

区民の皆さんに読んでいただくこういう文書は、できるだけ否定的な表現は避けて、皆さんのが前向きになれるような表現でまとめると。今のご指摘は後で事務局に検討していただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○坪委員 度々恐縮でございます。「あだち絵本シアター」の坪でございます。

事務局にご質問というか、ちょっと教えていただきたいことがあるのですが、これは、この5年間の計画期間が終わって、管理をするところは、例えば指定管理者制度に基づく選定委員会を経て事業者が決定されていくのか。そうなった場合、事業者のほうでこのコンセプトに基づいたいろいろなノウハウの提案がなされ、こちらの会議に出ている以上のことよいサービスがこの図書館の中で行われるといった理解でよろしいでしょうか。

○大串議長 それでは、事務局から分かりやすくご説明いただきたいと思います。

○大久保中央図書館長 坪委員にちょっとご確認なのですが、今ご発言があった運営や指定管理ということですが、図書館が15館ある中で、どこの部分をイメージしてのご質問になりますか。

○坪委員 今、区内図書館の管理運営をしている民間の会社さんがいるという認識だったのですが、そういう形と同じ、直営というより事業者を選定していくのだろうという認識でいたので、より幅広いノウハウがここにプラスアルファしていくものと考えているのですが、そのための骨子というかガイドラインを充実させていく取組なのでしょうか。

○大久保中央図書館長 このアクションプラ

ンができましたら、今おっしゃっていたイメージに近い形だと思います。いろいろな取組がありますが、基本的には足立区立図書館、15館あって足並みをそろえてやつていこうというところがありますので、例えば今おっしゃっていた指定管理者の事業者を選定するときに、これをそのままやってくださいということではないのですが、区立図書館はこういった方針でやりますので、ということをお示しした上でいろいろ提案をしていただくという流れになるのではないかと、今のところは思っています。

○坪委員 ありがとうございました。

○大串議長 よろしくうございますか。

ほかにご意見いかがでしょうか。ささいなことでも結構です。いかがですか。

今、世界的に見ますと、障害のある方も含めた「よりヒューマンな社会をつくろう」ということで国際的にずっと進んできた流れがあり、それに基づいて日本も法律を変えたり、僕が特別区協議会調査部で仕事をしていたときは、女子差別撤廃条約の批准とかがあり、国連から指摘を受けて学習指導要領を変えたのです。

それから、僕の仕事として、法律とか条例を全部洗い直して用語を全部変えました。

それから、私の仕事としては、法律とか条例を全部洗い直して言葉を全部変えたのです。そういう形でいろいろと日本もそれなりに努力てきて、図書館もそういう中で言えば、全ての区民の方が自分の思いどおりにいろいろ活用できるような図書館を目指すということになりますので、積極的にいろいろご発言いただいて、変えていきたいなど。

特に区の上位計画に子どもの読書推進計画があるということで、あまり読書について書いていないところもあるのですが、そ

ういうところも含めてご意見いただいたほうがよろしいかと私は思っています。

○坪委員 度々恐縮でございます。

先ほど豊田委員からお話を伺っていて、読む人と読まない人といったコンセプトが非常に大事だと思っておりまして、私の子どもが今2年生になるのですが、最近本を少し読まなくなつたと実感して。学校図書から本を借りてくるのが少なくなったから。

その中で、お友達はどうなのと聞いたら、「いっぱいみんな借りているよ」と言うのですが、ここに少しずつ開きが出てくるのかなと最近実感しました。

大人になってくると、メディア、SNSとかそういった媒体に行ってしまって、本に携わることが少なくなるのかなと私も非常に危惧しております。今聞いていて思った中で、学校との連携ということで、前回の1回目のときに田中委員からお話があった学校との連携、そこにもつながっていくのですが、子どもたちの社会科見学の一環で図書館に赴くことを今やっている学校がもしかしてあるのかもしれないですが、梅田八丁目は大きな主要駅に囲まれていて、これからスポットになるのは間違いないと思っているのですけど、足立区のこれからのお玉スポットに学校教育の一環で訪れて良書に触れ合い、また、そういう施設の中で楽しんでコミュニケーションを取っていく。そこに大学生がいたり体験を語ってくれる人がいたりすることは、非常に有意義に過ごせるのではないかと思っているのですが、その中で、やはり小さいうちから本に携わっていくことを取り入れてもらえると、私のことだけではないのですが、取り入れていただけると機会損失は少なくなつてくるような感じはしております。

以上でございます。

○大串議長 ありがとうございました。

まだご発言がない方は順番にお話ししていただいたほうがいいかなと思っております。

○檜垣委員 足立区郷土博物館で解説ボランティアをしております檜垣と申します。

社会科見学で図書館の見学があつたらいいのにということに関して、例えば小学校1年生、2年生の生活科の中で地域のお店とか見てみようという一環で行かれているケースもあると思うのですが、3年生、4年生になると社会科の副読本でよくあるかと思うのですが、郷土博物館に行ってみようという項目があって、毎年各小学校がバスで順繰りに3年生がごそっとやってくることがあるのです。4年生のケースもあるのですが。

そういう形で郷土博物館に1回足を踏み入れてもらう。その結果、すごく面白かったからといって土日にお家の方に連れてきてもらうとか、近隣で頑張って自転車で行ける子は行ってみよう、みたいな感じでリピーターになるお子さんが結構多いのです。

お子さんを連れてくるたびにお父さん、お母さんが来て、逆にお父さん、お母さんがはまってしまうケースもある。おじいちゃん、おばあちゃんがはまってしまって「こんなとこあったんだ」みたいなケースもあると思うので、ぜひ社会科見学みたいな一環で図書館に1回足を踏み入れる。可能であれば、図書館の方がどんなお仕事をしているのか、自分で本を取って読むところは皆さん見られると思うのですが、可能であれば、例えば書庫とか、こんなに本があるところから探して取ってきてくれるお仕事に興味を持たれるお子さんもひょっとした

らいらっしゃるかもと思っています。

なので、郷土博物館では、社会科見学で来たお子さんがリピーターになるケースは実際に出ているので、ありなのではないかなと思っています。

それと、中央図書館というよりそれぞれ地区の図書館なのですが、区民事務所と建物が一緒のケースが結構多いと思うのですが、郷土博物館で展示の解説ボランティアを担当しているときも結構多いのですが、足立区に引っ越してきたのですが、「なんでもうちの地域はこういう名前になっているのだろうと気になって調べにきたのです」という方が結構いらっしゃいます。

郷土博物館の中には、展示しているゾーンで、もともと足立区は新田開発から名前がついている地名が多いので、その新田開発をした人の名前について「〇〇新田」の「新田」が消えて地名が残ったケースが多いのですが、逆に「新田」だけ残っている足立区新田というエリアもありますが。そこを見て「へえ」となって、うち地域はそういう名前の由来があったのだということなのです。

引っ越してきた方が多分最初に行くのは、足立区役所のケースもありますが、区民事務所に行かれるケースが多いと思うのです。「ここは何でこういう名前になったのでしょうか」と由来のところを、「よかつたら上に図書館があるので調べて行きませんか」という感じで、足立区はエリアごとにどうしてそういう名前になったのかというブックレット「足立風土記」が出ていて、例えばそれを読んでいただく。もっと詳しいことを知りたい人には、郷土博物館がありますのでと。

郷土博物館は、そういう意味で言うと、ちょっと言い方が難しいのですが、支店が

なくて本店にいきなり行っていただくみたいな、ごめんなさい、何という表現がいいのか分からぬですが。すごく簡単なことだったら図書館とか区民事務所で補えるところはすごく大きいと思うのです。

なので、さらに詳しく調べたくなったら、そのときはどうぞと。例えば中央図書館を勧めるケースもいいと思います。その名前がついたのが昭和何年だったのだろう、大正何年だったのだろうとなったら、昔の新聞を読みたいケースで中央図書館をお勧めする、バックナンバーを見られると思いますので、そのような感じで勧めていただくということで、区民事務所間や郷土博物館もそうなのですが、いろいろなところの連携でふっと行っていただけの施設の1つになっていくといいのかなという気がしています。

すみません、まとまりませんで。以上です。

○大串議長 ありがとうございました。非常にいいお話ですね。

東京都はニューヨークと姉妹都市で、ずっと昔から図書館はニューヨークの影響を受けてきたのですが、ニューヨークの行政研究所が東京の行政との違いのレポートを出したことがあるのですが、住民の方が新しく移って来られたときに、アメリカの場合、最初に行くのは図書館、日本の場合は区役所で、地域には図書館とかいろいろあるのですが、住民、区民の方から見ると、区が配布している便利帳がありまして、あれは非常に役立つ。

ただ、今のようなお話のこともございますので、図書館にもネットワークとして加わっていただきいろいろと調べものをして差し上げるということがある。

ほかにいかがでございましょうか。

○三浦委員 NPO法人子育てパレットの三浦です。

ちょっと子育ての視点なのですが、本と子どもを出会わせていくのは本当に難しいと感じことがあります。でも、本は大人が選ぶものではないと思っています。本は出会いだと思うので、読みたいとちょっと思ったときに、その本がないと後々は読まなくなってしまうこともあるので、やはり数冊置いてあることが重要といつも感じています。

あと、小さな子どもが絵本を読むときにぱらぱら見て選ぶというよりも、子どもが好きな囲まれた空間があって、そこに何冊か持って行って自分で選ぶとか、そういう選択ができるような子に育っていくといいといつも思っています。

そういう意味でいったら、きちんと並んでいることは必要ではなくて、子どもが取りやすい絵本が並べてある図書館があったらいいと感じていました。

あと、絵本を通して親が子どもに伝えることができるものだと思っているのです。例えば昨日、産後ケアに来られたママがいて、赤ちゃんが生まれて、上の子が4歳なのだけど、赤ちゃん返りをしてしまって困っているというお話があったのです。そういうときに、「ちょっとだけ」という絵本があるのですが、そういう絵本をママに渡して、絵本を子どもさんに読んであげて、「ママはあなたのことをちゃんと見ているよ」ということを絵本を通して伝えられるというアドバイスを私はしているのですが、そういう意味で、いやいや期の子どもにいいとか、赤ちゃんが生まれたときにこういう絵本、あなたは宝物だよという絵本が配置されていると、それはそれで分かりやすくて大人も選びやすいと思います。

それと同時に、親になったからこそ理解ができる絵本とかそういうものがたくさんあって、講座の中でもそういう本を読むと大抵のお母さんたちは号泣してしまうのですが、そのような感じで、赤ちゃんが生まれてパパになったらこんな本がいいよとか、ママになったらこんな本がいいよと、そんな分かりやすい選別ができているところを今まで見たことがないので、そういうものとか、例えば誰かが亡くなったとき、おじいちゃん、おばあちゃんが亡くなったとき、こういう本を読むことによって命はこうなのだなとか、大切な記憶があるから元気に前を向こうと思えるようになるきっかけが絵本にはたくさんあると思っていて、みんな気がつかないので、それが分かりやすく並べられるといいのではないかと思っています。

そうすることによって、子どものときに絵本を通していろいろな困難を乗り越えていくことを教えてもらうと、大人になって困難にぶつかったときに、本を通して困難を乗り越えていくことができるような子に育つのではないかと思っています。

以上です。

○大串議長 どうもありがとうございます。貴重なお話で、子どもさんがそういう形で絵本と関わって、これから生きていく力をもらうという。

これはおっしゃるとおりで、例えば私の孫はアレルギーがあるのですが、本人にしてみればとても生きにくいと言いますか、アレルギーについてどう見たらいいのか考える絵本があって、その本をたまたまある人にもらったので読んで見せたら、「ああ、そうか」と、とても元気になりました。

それいろいろな出会いがあって、それは大切です。確かに分かりやすく並べら

れた棚づくりもいいのではないかという感じがします。

ほかにいかがでしょうか。絵本に関わられている方もいらっしゃるということですが。

○塚本委員 塚本です。頭の中でまとまっていないけど、意見ではなく感想というか考えていることになりますが。

やはり自分の子どもを見ていても、だんだん大きくなるから、家の長い廊下に家図書館というものをつくりっていて、3人の子どもが廊下に座りながら好きな本を読めるようにやっていて、僕も常に本をリビングで読んでいて、子どももその姿を見ているのですが、子育ての本とかだと親が本を読んでいると子どもも本を読むようになると書いてあったのを意識していたのですが、僕の子どもには全くそんなことがなくて。

子どもたちは自分のタイミングで自分の家のところから本を読むのですが、やはり大きくなると、先ほどのお話にもあったように、Y o u T u b e で本要約チャンネルを見てしまったり、絵の勉強をしたいという子どもがいると、「こういう本とかいいから買ってあげようか」と言うと、「いい、大丈夫。ネットで調べるから」みたいで、ネットで玉石混交の情報でもそれなりに見て、子どもたちはまとめることができてしまうのだなとすごく感じています。僕の絵本なんか読んでくれませんし、「読み聞かせするよ」と言っても「いい」と言うくらいです。

そこは置いておいて、図書館は何なのかなと今日考えていたのですが、A m a z o n とかネットで本を得られる手段とどう違うのか。僕はA m a z o n でよく買うのですが、A m a z o n だと、読む前に口コミ

が見られるので、どんな本なのかいろいろな意見が聞ける。あとは、以前購入しようとした本の関連本をレコメンドしてくれるとか、そういう機能があるし翌日には届けてくれるというものがあるので、やはり本を買うとかだとA m a z o n が便利ですし、買うまでもないなといったときは、僕もY o u T u b e で一旦要約チャンネルを幾つか見て、なるほどなと満足してしまうこともあったりするのです。

ここ数年で知った足立区の図書館で、ネットで注文すると遠くの図書館にあっても数日で近くに届けてくれて借りられるのはすごく便利でいいのですが、返すのが面倒臭いと思ってしまう。やはり5冊ぐらい借りて「2週間でこれを読まないと」というのがある。

A m a z o n などとどう違うかと考えたときに、僕は本で呼び込まなくていいのではないかと思っていて、本がある場所というより何か体験する場所というようにスタートしたら、例えば僕は図書館の方とイベントをさせていただくことがあるのですが、僕みたいに発信したい人、子どもたちに向けてイベントを起こしたり、親御さんに向けて何かを発信したいけどやる場所がないという人は結構いると思うのです。商売にしろアート関連にしろ。

発信したい人が発信できる場であり、そういうものを潜在的に受信したい人がいると思うので、そういう人たちがそういう場を知って、受信しに来る場所が図書館で、リアルで交流できる場みたいなものがあつてもいいのかなと。

僕のイベントは絵本に関連するので図書館と親和性はいいのですが、スーパーで野菜を買うより、八百屋さんに行くと「今日はこれがいいよ」とか昔あったように、例

えば八百屋さんが図書館でイベントをして、もちろん野菜の本とか、職業の本はたくさんあると思うので、そこで子どもたちが野菜を知って、八百屋さん体験をして、地元の人に野菜を売るみたいな交流をするとか、そういう体験をする場になると、こういう本があるからとか、図書館はこういう場所だから、と言わなくても自然と集まつてくる場所に図書館のイメージも変わってくるのかなと。

この間、たまたま武蔵野プレイスに行ったのですが、地下にティーンエージャーがスタジオを借りられる場所があって、例えば本を借りなくともそこに何か違う目的で行ったとして、スタジオとかでダンスの練習をして、何かうまく行かなかつたらちょっと本で調べてみるみたいな、たまたまそこに正しい情報があって、でも図書館に行く目的はまた別の発信したい人、受信したい人、交流したい人、何か練習したい人とか、そういう場所だと Amazonとかと大分ぶつかる場所が減って、使いたいとか使うメリットが明確になってくるのではないかと思っています。

○大串議長 どうもありがとうございました。

そういう視点を持っている図書館もないことはないのですが、調布のように地域のお店の方に来ていただいているお話し頂いたとか。

今度、梅田を担当して作業されている建築事務所がつくった図書館では、中高生向けの洋服などのデザインをつくる部屋、「ファッショナルボ」を設置したり、そうした部屋に集まつていろいろと考えている、そういういたしかけをしていらっしゃると思うのです。ですから、今のお話も参考になるなど

ほかにいかがでしょうか。

○芦川委員 足立区青少年委員の芦川です。

よろしくお願ひいたします。

先日、書店が減りつつあるというニュースを見たのです。それを見たときに、本に触れられる場所が限られ、図書館の必要性を感じたところがあります。

私事なのですが、自分の孫とかを見ていると、小さな頃から本に親しんでいくところがすごく大事なのかなと思っていて、いろいろな機会があるのだけど、図書館に行けば本がたくさんあっていいと思っている保護者はたくさんいると思うのですが、図書館は静かにするところ、静かにしていなければいけないというイメージがすごく強くて、敷居が高いのではないかというのは、前回もお話があったと思うのですが、それをちょっと感じました。

全体の方針としてビジョンが挙げられているのですが、「空間」とか「本との出会い」に関しては、そういう形でやっていけばいいということと、本当に気軽に本に触れられるができるようにしてあげると、もっと本好きな子も育つし、図書館の利用も増えてくるのではないかと感じました。

以上です。

○大串議長 ありがとうございました。

○高橋委員 読み語りボランティアの高橋です。

私たちが活動を始めたもう21年目になるのですが、それはどうしてかというと、中央図書館で「活字離れ」「本離れ」「図書館離れ」が進んでいるので、待っているのではなく、こちらから外に行ってということで、保健センターの3か月健診とかの待っている間に絵本をメインとしたおはなし会ということで講座を開いていただいて、そこからスタートしたのですが、今も20年前以上にも増して「活字離れ」「本離れ」

「図書館離れ」が進んでいると思うのです。

私たちの活動は、図書館の活動全体から見ると、絵本ということでゼロ歳から3歳、今はちょっと活動が広がって学童とか幼稚園。保育園でやらせていただいているのですが、メインはゼロ歳から3歳児の乳幼児の赤ちゃんと保護者の方を対象としたキンシップも楽しめる手遊びを入れてのおはなし会ということでやらせていただいています。

私たちが一番心がけていることは、楽しんでいただく。楽しくないと、お母さんは、暑い夏の日、寒い冬の日、大きな荷物を持って赤ちゃんを連れてきてくれません。

2か月半ぐらいで「首、大丈夫?」みたいな赤ちゃんを連れてきてくださるお母さんもいるのです。そういうお母さんが、おはなし会をやっているうちに顔の表情がほころぶのを見るとすごくうれしいのです。

あとは、お母さんに来ていただく、楽しんでいただく。そうしたら、お母さんがおはなし会以外にもひょっとしたら図書館に来て、赤ちゃんに絵本を選んであげる回数が増えるかもしれない。そういうことを私たちは常に念頭に置いています。やはり楽しいというのが一番人の心を動かして、身体も動かしてくれることだと思うのです。

だから、やはり図書館に行ったら楽しいということが何か1つでもあれば、お母さんは赤ちゃんを連れておはなし会以外にも多分来てくれるのではないかと思います。

そうすると、家でお母さんやお父さんと一緒に絵本を親しんだ赤ちゃんが、自分1人で来られるになったら、きっと図書館に1人で来て好きな本を探すと思うのです。私も小学生の頃にファーブル昆虫記にはまって、図書館で全巻読破したことがあるのですが、そのように子どもが小さい頃から

本に親しんでいれば、どんどん自分の好きな分野の本を見つけて、本好きな子になっていくのではないかと思います。

あと、いろいろハード面の充実も大切なのですが、最終的には人対人、図書館にもカウンターがありますし、絵本のおはなし会でも人対人になりますので、やはりソフト面の充実が必要不可欠だと思うのです。

あるメンバーがあるところでおはなし会のお手伝いをしたときに、スタッフさんがアンケートを取ってくれて、これは自戒も含めてなのですが、「おはなし会で絵本を読んでくれてもつまらない」と、図書館のスタッフも含めてということらしいのですが。いろいろほかにも書いてあって、「これをぜひうちの団体に持ち帰ってみんなの反省材料にしたいのですがいいですか」と言ったら、「これはちょっとプライベートなことなので、そういうことには使わないでくれ」ということで、一応私が代表をしているので、「ちょっとこの間、電話でこういうことを言われたのだけど」ということで連絡してくれたのですが、どんなにハードを充実させても最終的には人対人。

よくお母さんが子どもにビデオなんかを見せたりして、自分はスマホで一生懸命やっているお母さんが多いのですが、これは入門講座で講師の方がおっしゃっていたのですが、AIの人工的な声とアイコンタクトをして赤ちゃんに語りかける生の声は、脳の発達とか精神の発達においては全く違うということを、大学の研究などでも結果は出ているらしいのですが、そういうことを考えると、なおソフト面の充実、人材の充実が大切になってくるのではないかと思います。

以上です。

○大串議長 ありがとうございました。大変

いいご意見だと思います。

ほかの方、いかがですか。

○田中委員 小学校で図書館の担当をしておりますので、その辺りからお話しさせていただきます。

ゾーニングのことと学校との連携やＩＣＴに関して、ちょっとばらばら話をしてしまうかもしれないですが。

まず、ゾーニングについてなのですが、小学校で図書館を担当していますので、割と近所の図書館を含めて幾つかの図書館を意識して訪問しています。

住まいは江戸川区の千葉県寄りなのですが、単に図書を借りたいときは近くの図書館に行き、少しいい出会いをしたいと思うときは、1キロ半ぐらい離れたところに行きます。もっとくつろぎながらいい出会いを求めて、本を求めていい時間を過ごしたいと思うときは浦安市に行きます。浦安市中央図書館がとてもよくて、たまたま半年ほど前に出会ったのですが、そのよさは、びっくりしたのですけど、今までと違うゾーニングをされていまして、実はもともと軽食、ちょっと軽く飲みたくて探していたところ、広場の奥にのぼりが立っていたので近寄ってみたら、図書館の一部分で販売していたのです、軽食と飲み物を。コーヒーとハンバーガーだったのですが。

どこで食べられますかと言ったら、広場でもいいし中でもいいですよと。中はどうやって行くのですか、図書館から入ってくださいと言われたのです。図書館から入りまして、受付などを通った先にイートインのスペースがあったのです。聞くと、図書館の本も借りる前に持ち込んでよかったのです。見ると、何冊も本をテーブルに置いて、携帯を充電しながら、借りる前の本を読みながら飲食ができたのです。とてもび

っくりしました。このようにして図書館にある本をそこで見ながら飲食できる。汚してしまったらどうするのだと心配もあるのですが、まさに自分のお家でやっていることですよね。それが図書館ができるのを見て、とても新鮮な驚きと感動を覚えたのです。ここにまた来たいなと思いました。

実際、そこから月に1度程度通っているのですが、もちろん読書専門のスペースもあります。そういった意味でゾーニングがしっかりできているなと思いまして、いいところだと思っています。江戸川区にはそういうところはないですね。ですので、選んで行っています。そこは前庭と言ったら失礼なくらい広い芝生も用意されていて、子どもたちが遊んで、犬を連れた家族が遊んでいたりしながら図書館にもふらっと来たりすることもあるのかなと。軽食をしに寄ったり、そんなこともできるところですので、ゾーニングという意味では、大抵の図書館は一応ゾーニングされていて、飲食できる場所はあるのですが、もちろん図書は持ち込めません。

浦安のように思い切ったことをしてくれてもいいのかなと。飲食の販売もしているので、とてもいいなと思っております。

学校との連携についてなのですが、13ページに学校との連携を載せていただいてありがとうございます。とてもよく書かれていると思います。

子どもたちを図書館にいざなう方法、具体論が大事ですよね。ぜひそこは詰めさせていただきたいと思っております。

実際、今、連携は幾つかの形でしていまして、まず図書館からは、電話やファックスで大量の本を貸し出してくれます。各学校に配布をしてくれて、なおかつ返すときも取りに来てくれるのです。50冊、10

0冊単位でたくさん借りますので、そういうことはしております。

また、先ほど挙がった見学についても、多くの学校で年に1度、主に2年生が図書館見学に行きます。生活科見学の一環として幾つかの施設と抱き合せの場合もありますし、図書館のみに行く場合も多くあります。ただ、第1目的は、図書に親しませるではなくて、図書館で働いている方の仕事について学ぼうが第1目的なので、図書に親しませるのは第2目的になっています。もちろん我々は第2目的も重視して図書館見学をさせています。ただ、4ページのこの地図を見ていただきたいのですが、15館ある本区は23区で第2位だったみたいなのですが、確かに15館はとても多いと思うのですが、小学生目線で言いますと決して多いとは言えず、やはり子どもたちが自分の家から、あるいは小学校から1.5キロぐらいがせいぜいの活動範囲ですので、そう考えると、例えば東和図書館、ここに歩いて通える小学校は少ないです。東渕江、北三谷、綾瀬、その程度かと思いますので、この周辺の長門、東加平、辰沼、青井、この辺は歩いて通える図書館はないのです。ですので、実は子どもたちは図書館が好きなのですが、それほど身边には感じられない物理的な距離があります。その物理的な距離を縮める方法として1つ考えられるのは、学童や区民事務所が図書館と連携を図っていただければと思うのです。学童や区民事務所で図書が借りられたら、窓口というかそういったブース、機械があれば、子どもたちも相当機械はいじれますので、またそこに事務所の担当の方もいらっしゃると思うので、一緒になって図書を探して借りることができるとと思うのです。

電子の力を使って学童や区民事務所で借

りることができますと、とてもいいと思うのです。検索もできる。そういうシステムは多分綾瀬小とかはあるのかな。そういうところもあると思うのですが、もうちょっと子どもたちの身近な場所でそういうことができるといいかなと思います。

また、今、ICTとちらっと話しましたが、3年前に導入した足立電子図書館、とてもいいと思うのですが、今回の骨子、具体的なプランとどう絡んでいるのかなと。とてもいい具合にできているので、電子図書館のことがここにもっと落ちているといいかなと思うのです。

また、今、小中学生は1人1台タブレットを持っています。そこに直接電子でつながることができればという思いはあります。そうすると、よりアグレッシブに交流ができるのではないかと。

例えば、12ページに「デジタル情報との出会いをサポート」と書いてあるのですが、読むと一方通行の情報の流れを感じるのです。これを受け取った子どもたちが、こういうものはないですか、リターンができる、それでまた返答をもらったり、そういうことができるものがあつてもいいのかなと。

今、担任と子どもたちはある程度双方でタブレットを通して会話をすることができます。それと同じような形ができるかなとも思います。

長くなってしまいません。

○大串議長 貴重なお話、ありがとうございました。

戸部さん、いかがでござりますか。

○戸部委員 視覚障害という立場で私たちは主に中央図書館の3階のサービスを利用するのですが、先ほどもお話が出ていましたけど、やはり図書館イコール静かにしなけ

ればいけないと。ちょっとでも話をしたり、携帯電話をうっかり鳴らすと注意を受けたりして、そういうことが何回かあったので、正直言って私たち視覚障害がある者たちには使いにくいです。ですので、どうしても図書館は遠ざかってしまう傾向があります。

例えば付き添いさんにお願いして、「図書協議会から手紙が来たけど読んでくれない？」と頼むことがあるのです。身近に図書館があれば、そこへ行って読んでもらえばいいのですが、やはり静かにしなければいけないので、やはり図書館に行こうと思えないのです。

テーブルがあって椅子があって、簡単に手紙を読んでもらえるような場所を探すのです。だから、新しい計画について先ほどからいろいろ意見やアイデアが出ていますが、総合して使えるように、誰でも入っていろいろなことができて、本が読めて、インターネットが使って、何でもあるような施設になればいいと思っています。

現状の図書館を少しづつアレンジしていったらどうなのだろう。狭い図書館だと難しい場合もあるかもしれません、そういうところを開発して変えていったらどうなのだろうという気持ちもあります。

ちょっとうまく説明できなくて申し訳ないですが。

○大串議長 いや、おっしゃるとおりです。

やはり既存の図書館もこれから取り組んでどんどん変えていかなければいけない。

私も浦安で、そういう図書館につくりえるときに、呼ばれて話をしました。図書館は、にぎやかなところがあつていいとか、飲食を本と一緒に楽しむところがあつていゝとか、いろいろあってほしいんだが、館内にも反対する人がいるので、鎮めるような話をしてくれと言われて行ったことがあ

るのですけど、やはりいろいろな方がお使いになるので、そういう方がストレスなく使えるような空間につくり変えていく必要があると思うのです。

ですから、これからこのプランで足立区の中央図書館だけではなく、地域の図書館、小さな図書館でもご検討いただくということで進めていただくといいと思います。

それから、時間があと10分ぐらいになつたのですが、お話しitadaiいていない委員が3人いらっしゃる。まだの方、どうぞお話しください。

○菊入委員 中学校の校長をしております菊入と申します。

先ほど来、学校図書館との連携のお話が出ていますが、先ほど田中先生からもお話があったように、小学校では生活科と絡めて近くの図書館を訪問させてもらったり、あるいは中学校では職場体験学習で地域の図書館で職業体験をさせていただいたり、そういう形で学校との連携をかなり以前から続けてきています。

それから、中央図書館から図書の提供をしてもらったり、今、中学校の場合は、各校1名ずつ学校司書が配置されています。小学校にも巡回という形で配置されています。今後小学校も学校司書が充実していく方向で動いてもらっているところです。

やはり公共図書館と学校司書との連携をさらに密にしていただき、学校と地域の図書館がもっと機能的に連携していくよう、特に大学の図書館も含めたネットワークが充実してくると、児童・生徒の図書館に対する関心度がもっと高まつてくるのではないかと感じています。

特に今、学校では各校に図書館がありますので、その活用を充実させて、児童・生徒の読書への関心を高めていこうと取り

組んでいるところです。小学校などでは多くの学校で読み聞かせ、図書ボランティアの方に来ていただいたり、あるいは学校の教員が読み聞かせをしたりして、読書への関心を低学年のうちからつけていこうと取り組んでいるところです。

さらに学年が上がってくれれば、調べる学習コンクールなどの取組を通して、デジタルの情報だけではなく本の情報も活用しながら、自分の興味・関心に合った学習あるいは調査をしてみようという取組をしているところです。

今年度、中央図書館で夏休みに調べる学習コンクールの相談会みたいなものを企画していただきて、区内の小学、中学のかなりの数の児童・生徒が利用したと思うのですが、そういうものもぜひ地域の身近な図書館でも活発にしていただけるといいのかな。要するに発達段階に応じて、ここにも書いてありますように、小学生、中学生が図書館に足を向けるような働きかけと言いますか、イベントを充実させていただいて、学校図書館もいいのだけど、そこには魅力と言いますか、良さを感じさせてくれるような働きかけや仕掛けをつくっていくのが大事なのかなと。それには学校司書と公立図書館の司書との密な連携がやはり必要不可欠になってくると感じています。

以上です。

○大串議長 ありがとうございました。

足立区の学校連携のさらに内容をレベルアップして。

あとお二人いかがですか。小林さんと浅野さん。

○浅野委員 大学で司書の勉強などをしている浅野有美です。

どちらかというと感想になってしまいますが、地域の区立図書館ということで、

小さい頃を思い出すと、学校図書館との違いが必要なのかなど感じました。例えば本を好きな人でも学校は毎日行くので学校で借りればいいという子もいれば、本屋で買う人もいれば、今は電子書籍もあるので、そういうもので読んで満足している人もいると思うので、方針などにある「空間」「つながり」「本との出会い」が本当にうまくいったら、本を好きな人も来るし、本に興味がない人も来るということで、面白くなりそうだなと感じました。

あと、私は今、大学生なのですが、電子図書館も多分最近できたサービスで知らない人が多いと思っていて、ふだんから図書館に興味がある人は自分で行くので知っていると思うのですが、知らない人も多いので、新しく図書館ができたり、そのような大きいことで知る人が増えていくと思うので、多分これからは電子書籍にあまり抵抗がない人が増えると思うので、そこも含めてうまく行つたらいいのかなと感じていました。

以上です。

○大串議長 ありがとうございました。

小林さん、いかがでしょうか。

○小林委員 今まで皆さんにおっしゃったこと全てそうだなと思いながらお聞きしていました。

私は今、ここで書かれていることで言うと、「『つながり』の発展を目指していく」とか、「利用者同士の交流を促進する事業」みたいなキーワードに関連する仕事をしているのですが、ずっと素案を見ながら「つながり」って何だろうと思っていました。

図書館で「つながり」を皆さん求めて来るのかという根本みたいなところを僕自身がまだ把握できていなかったので、「つながり」を求めているのだと今さらながら再

発見なのか、もしくは問い合わせたところです。

というか、「つながり」よりも「やりたいこと」、「やりたいこと」があるから「つながり」という流れになると思うのですが、先に言葉として出てくる「つながり」が、包摂的に書いていることがどういう意味があるのかと思っていたところです。「交流を促進する」とか。もちろんコンセプトとしてこういうことを掲げること自体は大事だと思いつつ聞いていました。

もうちょっと現実的な話で言えば、先ほどいろいろ出ているような電子書籍とかスマホ、タブレットみたいなところへの動きがさらっと書いてある程度だなと。「デジタル情報との出会いをサポート」は何をするのだろうとすごく思っていたところです。

前回も申し上げたように、本を読むところに電子書籍を読むとか、何なら図書館は読書というか情報を取るアーカイブとか、例えば5冊借りるとき、5冊全部読み切るわけではなくて情報を取るという感覚からいくと、電子書籍やインターネットからの情報の攝取という作業と変わらないと思っていたときに、インターネットから調べることを皆さん読書と思ってアンケートに回答していないのかなと。僕からするとそれすら読書だと、インターネットで調べることも結構自分は読書だと思う派なので、何かその辺が、図書館というものを考えると自分の意識に差があるのだなと思ったりしました。

もう一つ、梅田のコンセプトなどを見ながらちょっと思ったのですが、ちょうど2か月ぐらいアジアのほうを、主に韓国と台湾ですが、本屋さんや図書館を何十か所も回ってきて、すごく圧倒的に思ったことは、やはりハードが大事だなと思いました。私

はソフトのデザインをしているからこそ、ハードの充実があった上でのソフトの動きなのだなと。今、言い方としては逆の言い方をすることも多いと思うのですが、私自身は、ハードでそういう空間づくりがある上に、それこそ電子書籍を読むとか、本を読まない人たちも来るような要素があって、ここで書かれているような「つながり」とかいろいろなアクションにつながるのではないかと思いました。

ちょっと感想みたいになってしましましたが、以上です。

○大串議長 ありがとうございました。

もう時間が来たのですね。事務局からあと5分大丈夫ということで。

○原田副議長 実際にいろいろお話を伺っていて、方向性は大体似ているのかなと思いながら聞いていた状況です。

今回書いていただいたお話に関して、皆さん同じような方向を向いてくださって、使いやすい図書館を目指していこうという考え方でいろいろお話ししていただいたなと思いました。

もっと言うと、ここに書いてあるだけでは不十分と言ったら変ですが、もっと書けというイメージなのでしょうか。実際問題としては、本を読む方、読まない方、両方ともという形、どちらかというと、今まで図書館を使ってこなかった人に対して目配りが不十分であるとか、そういうことも含めてさらにもっと書いていただき、今使っている人も使っていない人も書いてくれというお話が出ていた。

それからもう一つは、さらにどういう形で使うかについて、小林さんの話が非常に面白くて、「つながり」を求めているかどうかについて、私ちょっと疑問に思うところがあります。ただ、「つながり」とい

う言葉で表される中身が、交流を求めているかどうかはともかくとして、従来の使い方とは違うもについて求めている方々を呼び込みたい、そういう広い意味で取っていたくほうが妥当で、呼び込み方によっては「つながり」に絞り込まれ過ぎている側面があるのかなと思つたりいたしました。

書きぶりはかなり難しくて、例えば図書館は「良書」とは絶対書けないですよね。図書館に「良書」「悪書」はなくて、全てが「良書」なのです。様々な本、少数意見や場合によってはかなり過激な意見に関しても、それを知ることによって、様々な考え方を広げることができるという意味では全て「良書」なので「良書」とは書けない。

また、データ上は基本的に「読書離れ」はないとしか読みようがない。実際に減っていないのです。ただ、読み方というか、好きかどうかとか、もしくは強制されているかどうか、またはほかの本にどんどんつながっていくか、そういう読み方に関しては当然従来と違うものがあるという話で、単純に1つの言葉にまとめてしまうと、「良書」にしても「読書離れ」にしても逆に誤解を生むような表現があつたりしますので、それらについてきちんと分かるような形で書いていくことが必要で、そういう意味から言うと、ここに書かれている中身を広げて、さらにかみ砕くことが必要なのかなと思つたりいたしました。

区でそれをやっていくのはなかなか大変だと思いますが、次回に向けてぜひ進めていただければと思って聞いておりました。ありがとうございます。

しゃべり始めると1時間しゃべりますのでここでおわりにしておきます。

○大串議長 私が言うようなことをまとめていただいて。

皆さん方にいろいろご意見を頂いて、それぞれ非常にいいご意見だったと思います。これはいろいろ検討して、事務局で考えていただいたことを次回に出していただいて。

お話によると、次回で全体をまとめなければいけないという非常に足早のスケジュールになっているので、その辺で少しどうなるのかなというところもあるのですが。

○原田副議長 1点だけいいですか。成果指標なのですが、今日はお話が出なかったのですが、ここに成果指標は案として出ております。したがって、まだもむ段階ではないのかもしれません、ぜひ定量的手法だけではなくて定性的なものについても取り込んでいただければと思いますので、それも含めてご検討いただければうれしいです。

○大串議長 ありがとうございます。

ということで、時間が参りましたので、これからまたもう一度考えて、特に事務局に考えていただいてよりよい案を次回も出していただいて、それから皆さんのご意見を頂きたいと思います。

それから次に、議事としては梅田八丁目複合施設の基本設計概要（案）について、事務局から情報提供いただくのですが、特になければ次にいってよろしいでしょうか。

では、事務局から梅田八丁目のお話を頂きたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○大久保中央図書館長 事務局、大久保でございます。皆様、長時間にわたりご意見ありがとうございました。

私のほうで少しお時間いただきまして、梅田八丁目複合施設、本日の意見交換の中でも「梅田」というキーワードが何回か出

てきましたが、現在の基本設計業務の進捗状況について、こちらの図書館協議会の中でも皆様に情報提供させていただきまして、もし何か今日お気づきの点とか何かお感じの点があれば、ご意見を頂ければというところでご説明させていただきたいと思います。

こちらお手元に資料もお配りしておりますが、前方のスクリーンにも投影しますので、見やすいほうを御覧いただければと思います。

本日は細かいご説明をするというより、今日の協議会のいろいろなご意見の中でも、例えば本を読むだけではなくて、誰もがいろいろなことができるところ、それぞれの利用に合わせて本が読めるといいのではないかというお話があつたり、例えばほかの図書館で外に芝生がある、というお話もあつたと思うのですが、いろいろお話を聞いていましたら、この複合施設、皆様のお話の中に出でてきたことに近い施設なのかなと感じております。

ちょっとその前提でお話をさせていただきたいと思います。こちらは図書館を中心とする複合施設なのですが、今回、建物を建てるだけではなくて、両隣に公園が2つありますし、今は単にアスファルトが敷いてある道路状になっている土地があるのですけど、そこを今後緑道として整備できなかというところもありまして、この辺りを一体的に整備していこうというプランになっています。

コンセプトは上に掲げている1と2があるのですが、「世代を繋ぎ、居場所を育て続ける『本の里』」、「屋根のある公園・屋根のない複合施設」ということで掲げているのですが、こちらについては建物とか公園の境目がなく、とにかくいろいろなこと

ができる場所、いろいろな活動だったりいろいろな人の交流、それを屋外でも屋内でもできるような施設をつくっていこうということで計画しているところです。

先ほど芝生のお話がありました、実はこの左側の「亀田トレイン公園」とオレンジの部分がありますが、ここが図書館の入り口とつながっているところがありまして、例えばこの亀田トレイン公園を、今は全面芝生にはなっていないのですが、全面的に芝生にして図書館に続くアプローチの場所にするとか、そういう一体的な計画を考えているところです。

複合施設自体は、建物2階建てになるのですが、1階、2階の詳細についてご説明させていただきます。

こちらが1階になります。1階は左上のところに活動をやってみるというコンセプトを掲げておりますが、文字どおりとにかくいろいろな活動ができる場所ということで考えております。この点について、先ほどのご発言の中で、「つながり」を求められているのかと、「つながり」よりも「やりたいこと」ではないかというお話があつたのですが、まさにそのとおりだなとも感じまして、いろいろなことをやってみる場所、「やってみる」の中に「つながり」というものもあるのかなというところで、例えばやってみる場所の中の中心が「交流ひろば」という緑色のスペースなのですが、ここは広いオープンスペースをつくって、イベントを行うこともできるのですが、イベントを行わないときにはいろいろな人がいろいろな使い方ができるようにということで、まさに「やりたいことをやってみる」場所、そこで交流が生まれればということで「交流ひろば」ということで名前をつけています。

基本的な機能としては、この施設自体が3つの施設、図書館と子育てサロンとNPO活動支援センターの3つを複合化する施設なのですが、1階にその3つを入れる形になります。左下にキッズライブラリー、子どもの図書館があって、右側に子育てサロン、ピンク色の部分です。その上にラウンジというところがあるのですが、ここがNPO活動支援センターになるということで、せっかく3つの施設が入る施設ですので、ワンフロアに3つの機能をまとめて連携を図ろうという造りになっています。

前回、戸部委員から、図書館よりも集会所とか多目的な場所というイメージがあるというお話があったと思うのですが、まさにここは図書館の従来のイメージから少し離れた場所を目指してつくっているところになります。

一方で2階は、左上のところに「本を手に『とってみる』」というコンセプトを書いておりますが、図書館が中心になるスペースになります。

真ん中の四角い部分が「本の森」となっていますが、基本的にはここに図書館の本をメインで置く形になるのですが、それをぐるっと囲むような形でほかのスペースもあって、右側にちょっと濃いオレンジ色で「にぎやかエリア」があるのと、左下に「スーパーサイレントルーム」がありますが、ここは静かなエリアということで、にぎやかさと静けさが共存するような。

「にぎやかエリア」というのは、例えば中学生とか高校生が少し人と話して学習できるようなスペースをイメージしていたり、左下の「スーパーサイレントルーム」は従来の静かに読書をしたい、静かに学習したいというご利用にも対応できるような形で、この辺りはゾーニングをしながら進めています。

るところでございます。

ちょっと時間の都合もありますので、ざつとしたご説明になってしまいますが、今まさにこちらの協議会でご意見を頂いたような本を読むという目的であったり、勉強するという目的でなくても、何か自分がやりたいこととか、さらに言うと、目的がなくてもぶらりと来られるような場所を目指して今つくっているところですので、この辺りは随時また皆様にも情報提供させていただきたいと思います。

私からの説明は以上になります。

○大串議長 ありがとうございました。

どうしてもこの点は聞きたいということがあれば、お聞きいただいて。

○戸部委員 前回の会議でもちょっとお願ひしたのですが、視覚障害者のスペースはどこに置いてあるのですか。

○大久保中央図書館長 視覚障害者の方専門の部屋ということではないのですが、2階に個室、今映っている画面でいきますと「ルーム1」とか「ルーム2」という個室があります。ここは、例えば貸出用の部屋にして、目的に沿って使っていただくこともあります。専用のお部屋ではないのですが、そういったお部屋は一応あることにはなります。

あと、ちょっと申しそびれてしましましたが、この建物自体は全体的に今の基準に沿ってバリアフリーをしっかりとやらせていただいて、障害のある方でもご利用しやすいようにということで考えています。

○戸部委員 分かりました。では、設備などは、例えば今、中央図書館の3階にあるような設備、用途、そういうものもあるのでしょうか。考えていらっしゃるのかなと。

○大久保中央図書館長 今、戸部委員がおっしゃっているのは、中央図書館3階の障害

者コーナーのところという理解でよろしいでしょうか。

○戸部委員 そうです。

○大久保中央図書館長 そちらが、ほかの委員の皆様にもちょっとお話ししますと、個室があって、例えば視覚障害の方にボランティアの方が対面で朗読できるようなお部屋があったり、専用のパソコンがあるお部屋ということで完全に区切られたお部屋なのですが、今の段階では、そういう機能をここに設けるかはまだ決まっていないというか、今のところ予定はない形になっています。

足立区では、障害者の方へのサービスは中央図書館で一括で集中して行うということで、中央図書館で機能を整えるというのが現状です。

○戸部委員 分かりました。

○大串議長 今まで頂いたご意見では、やはり地区図書館をもうちょっと考えてもらいたいということなので、これから時間をかけて考えていただくことになる。

ほかにいかがでございますか。何かあれば。

○三浦委員 NPO法人子育てパレットの三浦です。

1つ教えていただきたいのですが、オープンな空間と伺っているのですが、子育てサロンの壁はどのくらいの高さになりますか。

○大久保中央図書館長 ちょっと今スライドを投映しますので、お待ちください。

今、三浦委員がおっしゃっているのは、ピンク色部分と黄色い部分の境目ということでしょうか。

基本的には、大きな壁をつくる予定はなくて、例えば低い家具みたいなもので仕切るとか、ゾーニングはするのですが、この1

階自体はなるべく仕切りをつくらないような形で考えています。

ただ、この子育てサロンは一時預かりのスペースもつくるのですが、そこはきちっとした区画をつくるとかして考えていきたいと思うのですが、何かお気づきの点があればご意見を頂ければと。

○三浦委員 ちょっとそういううわさがスタッフの中で飛び交っていて、みんな「難しいよね」と。ある程度の高さがあればいいけれど、子どもが行けるような距離だと危ないかなというのが1点と、子育てサロンに今来ていますということを知られたくないと思っているママたちがいたり、もう一点は、離婚された方が面会交流に使われている方とも聞いて、そういった方たちは「もうここは使えなくなるのかな」というお話が出てきています。

○大串議長 そういうことはちゃんと設定チームと話し合いをしていただいて、今日来ていただいている方はそれぞれいろいろなところで活動されている方ですから、そういった方々のお気づきの点があればどんどん言っていただいて意見交換して、それを生かしていただく方向で考えていただくとよろしいと思います。

ひとつ事務局、よろしくお願ひいたします。

○大久保中央図書館長 今のご意見を参考にさせていただいて、設計業務の中で検討させていただきたいと思います。

○大串議長 そろそろ時間になりましたので、まだご意見があれば事務局に直接言っていただいて、意見交換していただくとさせていただきたいと思います。

今回はこれで質疑応答を終了させていただきたいと思います。よろしゅうございまますか。

皆さん、ご協力いただきありがとうございます

ました。

最後に、議題の「4 事務連絡」について、事務局からご説明があるので、よろしくお願ひいたします。

—————◇—————

○大久保中央図書館長 事務局でございます。

大串議長、ここまでのご進行、誠にありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、本日も活発なご議論いただきまして、誠にありがとうございました。

では、事務局から 3 点ご案内させていただきます。

まず次の第 3 回協議会についてでございます。次の協議会ですが、令和 7 年、年明けの 1 月下旬から 2 月初旬に開催予定ということで、本日も皆様のご都合をお伺いさせていただいております。まだちょっと集計中で皆様にお聞きできていないので暫定にはなるのですが、私の手元ですと、一番ご出席が多いところで、1 月 27 日の月曜日が最多人数。駄目な方もいらっしゃるのですが、現時点ではここを中心に検討させていただきたいと思いますので、また皆様のご予定を確認の上、ご連絡させていただきたいと思います。現時点では、1 月 27 日が一番可能性が高いということで理解いただければと思います。

次の第 3 回が今年度最後の会議になります。先ほど大串議長からもお話がありましたが、次の会議でアクションプランをおおよそまとめていきたいと考えておりますので、引き続きまたご意見を頂きたいと思います。

事務局では、本日のご意見を反映して、さらにアクションプランをブラッシュアップ

したものをお示ししたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。完成次第、事前にお送りさせていただきます。

次に、本日の会議録についてでございます。会議録につきましては、第 1 回目と同様、事務局にて作成させていただきまして、委員の皆様に事前に内容のご確認をさせていただきます。皆様のご確認が終了次第、会議資料と合わせて、ホームページに掲載させていただく予定ですので、あらかじめご了承ください。

最後になります。本日、車でお越しの方につきましては、駐車券を事務局からお渡しいたしますので、会議終了後、会場内の職員にお声がけいただけますと幸いです。

それでは、事務局からの連絡は以上になります。

以上をもちまして、第 2 回足立区立図書館協議会を終了させていただきます。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

午後 1 時 59 分閉会